

平成 26 年度 第2回 屋代高等学校・附属中学校 学校評議員会 記録

日 時： 平成 26 年 12 月 19 日(金) 10:00～12:00

場 所： 本校会議室

出席者： 学校評議員 8 名

学校職員 8 名

1 学校長あいさつ

(学校長)

2 各担当より本校の課題についての説明

(1) 附属中学校の取組みについて

(副校長)

(2) キャリア教育（進路指導） センター試験に向けて

(キャリア教育主任)

(3) 生徒指導全般について

(生徒指導主任)

(4) SSHⅢ期第 4 年次の取組みについて

(SSH 委員長)

(5) 学校評価について

(教務主任)

4 質疑および提言

(1) 各説明に対する質問・意見

柴田) 今後、高校への移行にあたっていかに「中だるみ」を防ぐか、動機づけが重要。

⇒校長) 各種検定やコンテストなど外部に出ていく取組みは、進学のための学習ではない将来のための学習につながると考える。試験で入学する生徒と一緒にすることを意識させたい。

柴田) 中高一貫生には進学にあたって試験は無い？ (⇒無い。) 卒業式は？進級ということではなく？

そして入学式は？ (⇒卒業式を行い、入学式によって改めて入学する。)

野口) 中学生の状況を聞くと、素晴らしい成果を出している。自己肯定感が良いことではあるが。

⇒北沢) 実は自己肯定感はやや低い。切磋琢磨しているのだが、80 名の中で自分は劣ると感じている。

補習を行ったり質問を受け付けたりすることで下位の生徒を引き上げるよう努めている。

柴田) 中高一貫校の中学生は学業優秀なものだが、努力量ではなく得意不得意の質的な違いがあるので、高校に入ると変動する。入れ代わるのは良いこと。ある意味、期待している。

源関) 集団行動はできないが知識は持っている子。一人で読書していたりする。一般の学校でやっで行けるのか心配になるが、環境しだいで開花する。本附属中ではどうか。

⇒北沢) ADHD の診断を受けている子も入学する。中学の職員全体で情報を共有して見守り、指導している。40 名 2 クラスの小集団だと、はじき出されることもなく、上手くやっけていけているようだ。コンクールで活躍する子もいる。

柴田) 発達障害の診断も大事だが、個々の能力を見て伸ばすことが重要。本校の集団の中でそれが出来ているのはすばらしい。数字に努力が現れている。高校 3 年生を応援する後輩からのメッセージカードが廊下に貼られていた。その雰囲気の中に中学生も入っていくと良い。

(2) 本校への意見・要望

土井) やらせすぎを心配する。基礎力を育てるのが大事。中学生は自己肯定感の高い部分と低い部分を併せ持つのだと思う。バランスの悪い子も、成長して能力を発揮してくれるだろう。

児玉) 一つ優れたものを持つ発達障害の子はいる。附属中の入学選抜では面接をするが、そういった子は面接でうまく受け答えできないと落ちてしまうのか？配慮は？

- ⇒校長) 入学選抜は県の実施要項に則ってやる。入学したからには全ての子をしっかり指導する。
- 大石) 信大工学部の教員には屋高卒が多い。SSH フォーラム講演の篠原久典名古屋大教授は信大卒。つながりを広げてほしい。信大工学部環境機能工学科の SSH 枠に今年は 1 人志願して嬉しい。課題研究などの業績に数学分野のものが増えた。地域からの大きな期待にしっかり応えている。
- 柳澤) 附属中学生は全員、屋代高校へ? (⇒全員希望している。) ドロップアウトせずに伸びてこその一貫制。SSH の業績を見るとやはり理数科ばかりだが、理数科でないところでの活躍を期待したい。
- ⇒北島) 本校の SSH は理数科に特化してやってきた。課題研究は斑活動などとの両立が大変で難しい。普通科生徒にも SSH の取組みを拓けるように考えている。理数科、普通科 (選抜生)、普通科一貫生の 3 集団がいかに切磋琢磨していくかが今の課題。
- 柴田) 斑活動が盛んというのは良い。運動系だけでなく、たとえば生徒作品の展示など、芸術分野で頑張っている個人にも光を当てるような工夫をしてほしい。
- 源関) 附属中は、勉強はできても運動は…と言われていたが、ハンドボール県大会優勝で、他の学校に与える影響は大きい。勉強以外も伸ばせるというイメージが変わる。
- 児玉) 正直、附属中は雲の上の存在。塾で訓練している子でないと受からない。入学しても学習についていけるか心配。とはいえ、子どもたちには入りたい気持ちはとてもある。
- 野口) 本校のばあい、県下初の公立一貫校なので設立目的が一目瞭然。市立中学校も目指す学力は同じなのだが、立ち位置が違う。それで良いと思う。運動能力が高い上に 1 年次から大会に出場してきた経験値と高校生から教わる利点は大きいだろう。ハンドボールは地域に根づいた競技。さらに切磋琢磨して発展させてもらいたい。
- (3) 中高一貫制と今後の本校のあり方について提言・その他
- 柳澤) 関心あるのは、普通科をいかに伸ばすかという点。
- 野口) 長野県の教育重点 8 項目に学力と体力の向上とあるが、中学生の体力はどうか。また、心の面、ルールやマナーをどう身につけさせるか。
- 土井) SSH, 中高一貫など、大きな使命を担っている。世界での活躍もいいが、地域に戻って地域を盛り立てるような人材も必要。民間の力も合わせて、郷土愛を育てていかななくては。
- 高野) かつて教員だったときにもっとこうしていればという悔いと、家庭や生活を省みなかったことが思い出される。先生方は頑張っていると思うので心配でもある。文武両道で、変なエリート意識もなく、中高とも優れた教育をしている。これを見たら世間で言われるような不満も出ないだろう。
- 野口) 屋代から全国へ、さらに世界へ。他者を認める慈愛の心と、大志をもって飛び出してほしい。
- 源関) うまくいなくても、たたかれても、這い上がる経験をして生徒が育っている。普通の学校ではできないことをやったりもしている。教員全体で見ているのが大切。
- 児玉) 行動面も育てていくことは重要。文武両道の“文”はすばらしいが、最後は体力。中学校から高校へ、斑活動がうまくつながっている。
- 大石) 30 年後には子どもの数が半減する。ぜひ、今の勢いでいってくれればと思う。

5 閉会 学校長より

教員が忙しいのは事実。生徒の成長として返ってくるものがあるからこそ、というのが教師の根本。授業改善と一丸となつての学校づくりを職員会議でも常に強調している。来年からの課題は、普通科、理数科、一貫生をどううまく切磋琢磨させるか。さらなる少子化時代に本校の、長野県の学校教育がどうなっていくのかは大きな課題と考えている。